

## 第6回東北地方交通審議会議事要録

日 時：平成15年3月26日(水) 14:00～16:00

場 所：ホテルメトロポリタン仙台 4階「千代東」

出席委員：稲村委員、上野委員、勝股委員、菅野實委員、熊谷委員、藤崎委員、八島委員、  
清水臨時委員、西谷臨時委員、野崎臨時委員、菅野佑三臨時委員、嶋津臨時委員、  
三船臨時委員、湯村臨時委員、青木臨時委員、宮田臨時委員、  
得能臨時委員(大友広域調整部長)、木村臨時委員(中村企画振興部長)、  
増田臨時委員(池田地域振興部次長)、浅野臨時委員(柿崎副知事)、  
寺田臨時委員(塚田建設交通政策課副主幹)、高橋臨時委員(高村土木部次長)、  
佐藤臨時委員(伊東生活環境部県民環境室長)、藤井臨時委員(斉藤助役)、  
鹿野臨時委員

( )は代理出席者

運 輸 局：久米東北運輸局長、上田東北運輸局次長、遠藤企画振興部長、三谷交通環境部長、  
駒場鉄道部長、中野自動車交通部長、菅原海事振興部長、江原企画課長

### 次 第

#### 1. 開 会

#### 2. 東北運輸局長あいさつ

#### 3. 議題

(1) 会長選出、会長代理指名

(2) 会長あいさつ

(3) 東北地方交通審議会運営規則の改正について

(4) 「東北地方における望ましい交通のあり方及び観光振興戦略について」(諮問)

(5) 今後の審議の進め方について

東北地方の交通・観光の概況の説明

審議事項について

部会の設置について

今後の予定について

(6) その他

#### 4. 閉 会

## 議事要録

### １．開 会

事務局 大変お待たせいたしました。

定刻には若干時間がございませが、委員の皆様おそろいになられましたので、ただいまより第6回東北地方交通審議会を開催させていただきます。

本日は、年度末の大変ご多忙の中、本審議会にご出席を賜りまして大変ありがとうございます。

申し遅れましたが、私、東北運輸局企画振興部企画課長の江原と申します。会長に議事進行をお願い申し上げるまでの間、私が進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速始めさせていただきます。

まず初めに、本日ご出席いただきました委員の出席状況についてご報告致します。本日は、委員及び議事に関係のある臨時委員26名のうち、代理出席も含めまして25名の出席をいただいております。これは、東北地方交通審議会規則第7条第1項に規定する過半数との定足数を充足しておりますので、本審議会は有効に成立いたします。

続きまして、本日の審議会の議事の流れにつきまして、議事次第に基づき簡単に説明致します。

(議事次第に基づき説明)

続きまして、本日ご出席の委員の皆様をご紹介させていただきたいと思いますが、本来お一人ずつご紹介をすべきところでございますが、会議時間の関係上、お配りをいたしました出席者名簿をもってご紹介にかえさせていただきます。

なお、一部訂正がございまして、秋田県から建設交通部の能藤次長がご出席の予定でしたが、急用のため、塚田様にご出席をいただいております。

### ２．東北運輸局長あいさつ

事務局 それでは、本審議会の開催に当たりまして東北運輸局長よりごあいさつを申し上げます。

久米東北運輸局長 東北運輸局長の久米でございます。

本日は年度末の大変お忙しい中を東北地方交通審議会へご出席を賜りまして、大変ありがとうございます。また、日ごろより皆様におかれましては、国土交通行政に対しましてご理解、

ご支援をいただいておりますことを厚く御礼申し上げる次第でございます。

東北地方の交通をめぐる状況につきましては、モータリゼーションやあるいは人口減少、少子高齢化といった社会構造の変化に伴いまして、地域の公共交通機関の利用者数が減少を続けております。例えば乗合バスにつきましてはピーク時の3割弱にまで減少するなど、大変厳しい状況となっております。公共交通機関は「地域の足」として必要なものであるとともに、地球温暖化防止のためのCO<sub>2</sub>削減策としても重要なものでもございます。そのため、利用者の多様なニーズに対応した利便性の高い公共交通サービスを提供することにより公共交通の利用促進を図り、それぞれの地域の実情に応じた適切な公共交通の整備を進めたいと考えております。

東北地方では、昨年12月に新幹線が八戸まで延伸され、すべての県に新幹線が開業いたしましたところでございます。さらに、現在、新青森への延伸が着実に進められているところでございます。また、各県に空港が整備されるなど、高速交通ネットワークを形成するための社会基盤の整備は進んできております。

こうした状況を踏まえ、東北地方の社会経済に活力を与える広域連携を実現するために、新幹線を主軸とする鉄道網、空港や高速道路といった高速交通基盤の整備効果を最大限に生かし、鉄道、高速バス、航空による広域的な高速交通ネットワークを効率的に形成していくことが重要な課題となっております。

このような広域連携の必要性が増加するとともに、私ども東北運輸局におきましては、昨年7月に秋田・山形県を加えまして6県体制となったということがございました。この東北地方交通審議会におきましては、従来県単位で交通計画の策定が行われてまいりましたけれども、今後は東北地方を一体と捉えたブロック単位での望ましい交通のあり方についてご審議をお願いしたいと考えております。

また、長引く日本経済の低迷により閉塞感が広がる中、新たな経済活性化の起爆剤としての観光に対する期待感が高まっております。今後、アジアを中心に国際観光市場の拡大が予想されることをにらみまして、現在低水準にある日本への外国人旅行者の来訪促進が国家的な課題となっております。観光振興は、各地域の各主体がそれぞれ懸命に取り組まれているところでございますけれども、東北地方への観光客の誘致促進のためには、各地域が広域的に連携いたしまして、また、官民の各主体が一丸となって効率的に推進していくことが重要であると考えております。そのため委員の皆様には、東北地方の各地域、官民の各主体が一丸となって取り組むべき観光振興戦略の策定についてのご審議をお願いしたいと思っている次第でございます。

ます。

公共交通の整備の前提となる公共交通需要の確保・拡大のためには、観光振興による需要喚起が有効であります。また、観光振興の前提としての利便性の高い交通手段が必要であるという点で、両者はまさに車の両輪という関係にございます。したがって、東北地方の活性化のためには交通と観光の両者が相まって発展していくことが重要であると考えております。

そのため委員の皆様におかれましては、少子高齢化、人口減少といった社会構造の変化や、地球温暖化等の環境問題への対応といったことを踏まえつつ、東北地方の持つポテンシャルを最大限に生かした望ましい交通のあり方及び観光振興戦略に関する中長期的なビジョンにつきましてご活発なご審議をお願いいたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございました。

### 3. 議 題

#### (1) 会長選出、会長代理指名

事務局 それでは、早速議事の方に入らせていただきます。

本日最初の議題は、東北地方交通審議会会長の選任です。本審議会につきましては、現在、会長が未定の状態となっておりますので、ここでご選任いただきたいと思っております。

会長の選任の手続ですが、地方交通審議会規則第5条第1項の規定により、委員の互選によって決定することになっております。委員どなたか会長のご推薦をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。（「はい」の声あり）上野委員、よろしくお願いいたします。

上野委員 上野でございます。ただいまご推薦いただけないでしょうかというお話がありました。私は八島委員を推薦したいと思っております。八島委員は、ご承知のとおり東北経済連合会の会長として東北地方の経済社会の動向に極めて高いご造詣をお持ちの方でいらっしゃいますので、この審議会の会長として最適任であられると存じますので推薦申し上げます。

事務局 ありがとうございました。ただいま上野委員から八島委員を会長にというご推薦をいただきましたが、皆様いかがでしょうか。（拍手、「異議なし」の声あり）

皆様、拍手でご了解いただきましたので、八島委員に会長へご就任いただきたいと思っておりますけれども、八島委員、いかがでしょうか。

八島委員 八島でございます。大変重い役目でございますが大変だと思いますけれども、皆様からのご推薦でございますので、引き受けさせていただきたいと思っております。

なお、地方交通審議会規則第5条第3項では、会長は会長代理を指名することになっているようでございます。これに基づきまして、交通分野に学識の深い方を会長代理として私から指名させていただきたいと思っております。稲村委員にお願いいたしたいと思っておりますが、皆さんいかがでしょうか。（拍手）

事務局 ありがとうございます。ただいま八島会長から稲村委員を会長代理にということで指名ございましたが、稲村委員、よろしいでしょうか。

稲村委員 及ばずながら、ご指名ですので引き受けさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。（拍手）

事務局 大変ありがとうございます。

それでは、本審議会はただいまより八島委員を会長に、稲村委員を会長代理として審議を進めさせていただくことになりました。

## （２）会長あいさつ

事務局 それでは、早速ですが、八島会長には会長席の方にお移りいただきまして、会長としてのごあいさつを一言いただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

八島会長 それでは、ただいま委員の皆様のご推薦によりまして東北地方の審議会の会長を務めることになりました八島でございます。ひとつよろしくご指導願いたいと思っております。

皆さん既にご承知のとおりでございますが、先週、米軍によりますイラク攻撃が開始されまして日一日と攻防戦が激しくなっていくなど、国内外の政治経済情勢はますます混迷の度合いを増してきておりまして、今後の進展次第では低迷しております東北経済により深刻な影響を与えかねないと危惧しているところでございます。

東北の経済にとりましても、早期に戦争が終結いたしまして一日も早い景気の回復が望まれるところではございますが、ただそれを待つばかりではなくて、東北の官民が一致団結いたしまして、総力を上げて景気回復のための対策を講じていくことが大変重要であると考えております。

このような状況に加えまして、少子高齢化による人口の減少など社会経済構造は近年著しく変化しておりまして、特に交通を取り巻く状況も大きく変容をいたしております。交通は、これまで経済社会の発展や国民生活の質的向上に大きな役割を果たしてまいりましたが、その一方で大変厳しい環境下にもございます。この審議会の場で東北地方における交通の果たす役割をしっかりと審議していただきまして、望ましい東北地方の交通のあり方をご提示していくこ

とは、地域に活力を与えるとともに、広域連携を促進していくためにも大変有意義であると存じます。私といたしましても、審議会会長といたしまして責任を痛感しているところでございます。

また、今後の東北経済を浮揚させて地域の活性化を図るためには、観光の振興もまた大変重要であると認識しております。そのためには、関係する事業者の皆様が個々に対応するのではなく、統一的な指針のもとに一丸となって取り組んでいくことが重要ではないかと思っております。

本審議会においては、こうした問題意識を踏まえまして、ぜひとも皆様方のご協力をいただきながら東北地方の望ましい交通のあり方と観光振興戦略の提示を目指してまいりたいと考えておりますので、何とぞよろしくお願いを申し上げます。

簡単でございますが、私から就任のごあいさつとさせていただきます。よろしくお願いいたします。（拍手）

事務局 ありがとうございました。

それでは、ここからの議事進行につきましては八島会長にお願いをいたしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

### （３）東北地方交通審議会運営規則の改正について

八島会長 それでは、早速審議に入りたいと思っております。

議題の（３）に入らせていただきますが、本格審議に入ります前に、議事の公開に関しまして東北地方交通審議会運営規則の改正をご提案いたしたいと思っておりますが、詳細につきましては事務局の方から説明をお願いします。

事務局 今回ご提案をさせていただく運営規則の改正について説明いたします。

（資料２に基づき説明）

趣旨をご理解の上、ご賛同いただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、事務局からの説明を終わらせていただきます。

八島会長 ただいま事務局の方から説明がありました運営規則の改正に関し、皆様よりご意見、ご質問を頂きたいと思っております。ございませんか。（「異議なし」の声あり）

ないようですので、東北地方交通審議会の運営規則の改正につきましてはご承認いただいたものとしてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

八島会長 ありがとうございます。それでは、ご承認いただいたことといたします。

(4) 「東北地方における望ましい交通のあり方及び観光振興戦略について」(諮問)

八島会長 引き続きまして議題の(4)に入りたいと思います。

事務局より諮問書及び諮問理由の説明をお願いいたします。

事務局 それでは事務局の方から、資料の3によりまして諮問文、それと諮問理由の方を読み上げさせていただきます。

(資料3 諮問文及び諮問理由読み上げ)

以上でございます。よろしくご審議をいただければと思います。

八島会長 ただいま東北運輸局長より諮問いただきましたので、当審議会といたしましてこれをお受けして、慎重に審議を進めてまいりたいと思います。

(5) 今後の審議の進め方について

東北地方の交通・観光の概況の説明

審議事項について

部会の設置について

今後の予定について

八島会長 引き続き議題5の今後の審議の進め方について事務局より説明をお願いします。

事務局 説明させていただきます。

まず初めに、ご審議いただきたい内容、検討事項とその背景につきまして、資料4の概況説明、それと資料5の審議事項案により説明させていただきます。その後、審議体制及び審議のスケジュールについて、資料の6、審議体制・審議日程案により説明させていただきます。

(資料4、資料5及び資料6に基づき説明)

なお、本日設置をご了承いただきたいと考えております観光戦略部会でございますけれども、部会の設置につきましては、これは手続上の話でございますが、地方交通審議会規則第6条1項に基づきまして、審議会の中でご承認をいただければと考えております。

また、部会に属すべき委員につきましては、これも地方交通審議会規則第6条の2項で、会長が指名をすることとされているところです。事務局といたしましては、観光戦略部会のメンバーになっていただく方といたしましては、学識経験者の方、経済界、観光あるいは交通の事業者の方、地方公共団体の代表の方といった分野からご選任をいただくのが適当と考えており

まして、後日、会長ともご相談させていただいた上で、会長からご指名をいただきたいと考えております。また、会長から指名をいただきました後は、各委員の皆様にも事務局の方からその結果につきましてご通知を申し上げたいと考えております。

事務局からの説明は以上でございます。ありがとうございました。

八島会長 ありがとうございます。

ただいま事務局から検討課題についての提案がありましたが、当面は、そのうち広域的な交通ネットワークの整備、それから観光振興について重点的に審議をしてほしいという提案です。その中でも喫緊の課題であります観光振興については、観光戦略部会を設けて集中的に審議を進める、また交通のあり方については、地方公共団体や関係事業者等からの意見聴取の場を設ける。その結果を踏まえまして次回の審議会ですらに議論を深めて、必要に応じてまた新たな部会を設置するという事だろうと理解しております。

ただいまの事務局の説明、提案につきまして、何かご質問あるいはご意見がございましたらお願いいたします。

柿崎宮城県副知事（浅野委員代理） 今の説明の中で、部会の委員について会長からの指名というのがございました。観光戦略部会、これは自治体の場合は全て入るのでしょうか。

八島会長 私もまだ具体的には持ってないのですが、事務局から。

事務局 本日もご出席をいただいております県あるいは政令指定都市の方にはご参加をいただければと事務局としては考えております。

八島会長 よろしいでしょうか。ほかにはございませんか。

稲村委員 資料5の審議事項の最初のページに「短期・中長期」とあり、目標年次が概ね10年後の2015年とあります。これは10年後を目指して、短期的に取り組む問題と中期的に取り組む問題が当然ありますが、10年後以外に短期的なもの、10年後という中期的なもの、さらに長期的なものといった、目標年次を幾つか設定しようと考えているのかというのが1点です。

あと一つは、対象交通機関に鉄道、バス、タクシー、旅客船及び航空とあり、これに限定していますが、トラックや貨物船、先ほどコンテナ貨物の説明もありましたが、貨物船や航空貨物といったものが入っていませんが、対象交通機関はこれに限定されているということなのでしょうか。以上、2点お聞きします。

八島会長 それでは事務局の方から。

事務局 まず目標年次の関係ですが、策定時から概ね10年という大体中期的なもの、これを

まず基本として考えております。ただ一方で、先ほど観光について喫緊の課題であると申し上げましたとおり、非常に短期的に実現を図っていかなければならないような課題もあるだろうと考えておまして、その意味ではより短い期間のものも計画の中に含まれてくる。逆に、10年というスパンでは取り込み切れないような、いわゆる長期的な課題というものが浮上してきた場合には、それもその必要に応じて計画の中に取り込んでいくことが必要と考えております。要しますと、基本としては10年後ということですが、必要に応じて短期のもの、長期のもの、織りまぜていくようなイメージで考えおります。

2点目の対象交通機関の点でございますが、これにつきましては委員ご指摘のとおり、私も検討課題の方でも貨物輸送関係を考えております。そういった意味では、対象交通機関は鉄道、バス、タクシー、旅客船及び航空ということで、いわゆる人流、旅客輸送の関係に限定されたような書き方になっておりますが、この議論の中で委員ご指摘のトラックであるとか、あるいは海運、航空貨物というものも対象に含まれてくると考えております。

八島会長 よろしいでしょうか。

確かに年次というのは設定が難しいと思います。交通の問題だと特にインフラ、社会資本の整備が伴ってきますので、そういう意味で非常に、短期的に見たらいいのか長期に見たらいいのか、どちらかだというと長期的になるのだらうと思いますが、やはり必要に応じてローリングするということですね。

事務局 はい。

八島会長 ほかにございませんか。

勝股委員 このいろいろの部会設置をお考えのようで、とりあえず観光戦略部会を設置して、後で重点課題について部会設置ということになっていますが、現在どのようなことを念頭に置いておられるのか、おわかりの範囲でお聞かせいただきたい。

事務局 ただ今ご質問のありました点につきましては、1年後に交通のあり方に関する部会を設置したいと思っております。その中で重点を置く事項につきましては、本日の委員の皆様のご意見を踏まえながら検討していく必要があると考えておりますが、事務局といたしましては、これまで県単位の計画から、今回ブロック計画にしたということで、広域的なものあるいは東北地方一体としたものにやや比重を置くような形というのが一つ考えられると思っております。ただ、それに限らず広く検討するようなやり方もあると思えますし、あるいは課題に応じて広域的なものや都市内に限定されるようなものをそれぞれ複数設置するというようなことも考えられると思っておりますので、事務局として皆様のご意見を受けながら、十分検討をしま

りたいと考えております。

勝股委員 今回のその交通のあり方というテーマですとすべてが網羅されてしまうわけでしょうし、さっきの検討課題の1から9までの中で、1が国内の幹線ネットワーク、2が国際航空ネットワーク、それから4が都市交通、5が地域交通、それから6がバリアフリー化とか環境にやさしいとか、すべてが交通のあり方に関係するものであるわけで、こういう検討課題を1から9まで設定する過程で恐らくこういうようなものを重点的にやろうというお考えがあったことだろうと推測したのですけれども、その辺はいかがですか。

事務局 事務局の中でもいろいろな議論もありまして、まず本日お示しした9個の検討項目、これらは考えられるものを一通り網羅するというような発想でお示ししてございます。その中でやはり重点化をしていく必要があるのではないかと考えておりまして、どの分野について重点化するかということにつきましては、まず検討課題の1・2・3と考えているところです。

八島会長 よろしいでしょうか。

菅野實委員 私、建築が専門で交通問題はあまり詳しくないのですが、きょう九つのテーマということで、バリアフリーや環境にやさしいという点がこれからの社会にとって重要だという取り上げ方は非常に妥当だと思います。

しかしもう一つ、交通の問題は、まちづくりの問題との関係で捉えることが非常に重要ではないかと思えます。したがって部会の設置では、まちづくりとリンクした部会が必要ではないかなと思えます。東北はいろいろ説明ありましたように非常に広い土地に少ない人口が、極端に言いますとパラパラ住んでいるという、そういう状況で交通問題を考えていくというのは大変やっかいな問題です。そこに交通問題の方からまちづくりに何を求めていくのか、どういう課題を突きつけるのかという点をもっとクリアにしていく必要があるのではないかと思えます。以上です。

鹿野委員 ただいまの関連です。9項目の中の第5番目に広域市町村合併に関してもテーマとしていただきましてありがとうございます。ただいまお話のありましたバリアフリーとか環境といったかねてから予測されていた問題に加えまして、市町村合併絡みのまちづくりとそれに伴う新たなニーズが今後急速に浮上してくるものと見ております。このような観点からも、ただいま委員からお話のあったまちづくりにかかわる部会というものについて今後ご検討をお願いします。

八島会長 何か事務局ありますか。

事務局 ただいま委員からお話しありましたまちづくりと交通というのは非常に密接な関係が

あるということをご指摘のとおりだと思います。まさに、まちのあり方というものから交通を考えていく面、逆に交通のあり方というものからまちというものができていくというような面、両面がございまして、この両者を切り離して考えることはなかなか難しいだろうと考えております。

また、今後市町村合併を進めていく中で、交通の状況が考慮すべき事項として入ってくるのかもしれないし、あるいは市町村合併が実現した暁にどういう交通体系をつくっていくかというものも非常に重要なテーマになろうと考えております。

東北地方交通審議会はブロック単位での計画を検討するというので、非常に広範なエリアを扱う中で検討課題を重点化していくという制約はありますが、ただいまのご指摘を踏まえまして、どのような形で部会の設置なり重点化をしていくか、事務局で検討させていただきたいと考えております。

八島会長 よろしいでしょうか。

稲村委員 今のご質問とご回答、ここに書いてあることと少し差異があるように感じるのですが、資料5では、検討課題1から9まで挙がっていて、当面の重要検討課題は1から3だとあります。今の広域合併の問題、まちづくりの問題は、捉え方はいろいろありますが検討課題5であり、先ほどの説明による今回の重点には入っていないと思います。

それで、先ほど勝股委員が整理していただいたように、検討課題の1は幹線ネットワーク、検討課題2は国際化、国際的な交通の問題あるいは観光の問題、そして検討課題3はまさに観光そのものの課題だと思います。このように考えますと、この文章を読む限りでは、国際航空ネットワークの問題と国内幹線ネットワークの問題を考えた上で観光に重点を置くということであって、今のお話の点は重点課題には入っていないと思います。

遠藤企画振興部長 東北運輸局の企画振興部長の遠藤でございます。

この重点課題というのはあくまで事務局の方で設定いたしましたものでございまして、本日の各委員の皆様のご意見を踏まえまして、またその重点課題というものもある程度広がりを見せてくるのではないかなと考えております。先ほど鹿野委員からお話しのございました件につきましては検討させていただきたいと思います。

私どもは、この交通の問題でまちづくりと連携している部分については、非常に問題意識を強くしております。実際、運輸局といたしましては、公共交通活性化総合プログラムという予算も持っており、現在、東北各地で、いわばそのまちづくりと連携して交通をどのように改善していくかというような議論をしているところでもあります。この公共交通活性化総合プログ

ラムは短期的な課題の検討であり、長期的な部分はまさにこの地方交通審議会でご議論いただくものです。各地の短期的な課題を抽出したのも事例として紹介させていただき、さらに長期的な取り組みとしてどのように展開すべきかということもご議論いただくことが適切であると考えています。以上でございます。

八島会長 ありがとうございます。ほかにご意見ございませんか。

それでは、ただいま頂いたご意見を踏まえまして、さらなるブラッシュアップを図りながらまとめていきたいと思えます。基本的にはこの案を一つのベースとして立てていきたいと思えます。さらに観光戦略部会の問題でございますが、これについては先ほど事務局から説明がありましたように私にご一任ということで、後日指名させていただきたいと思えます。

それでは、交通と観光に分けて、さらにご意見をいただきたいと思えます。東北地方の望ましい交通のあり方ということを最初のテーマにいたしますが、ございませんか。地方自治体の方から、青森県さん、いかがでしょう。

中村青森県企画振興部長（木村委員代理） 検討課題1に関連してですが、いわゆる高速交通インフラとして整備新幹線の効果というのが、いかに大きいかという点でお話をさせていただきます。先ほどからお話が出ておりますように、昨年12月1日に東北新幹線が八戸まで開業いたしまして約4カ月になります。観光面からいいますと、この期間は冬場でありオフシーズンとなりますが、実際、新幹線の利用者数は、開業当初から一貫して、対前年比約150%、さらにはご利用いただいた方が八戸周辺だけではなく、青森県の例えば弘前を中心とした津軽方面、それから下北半島ですとか、県内至るところにいるんな形での効果が出てきております。

具体的には、例えば観光施設の入り込み客数は、それぞれの施設によって違いますが、概ね130%から200%近い増加になっておりますし、ホテルの宿泊客数というのも、調査したホテルに限定がありますが120%から250%。それから、八戸周辺の物産関連施設では150%から300%。さらに、新幹線の利用が増えている割に、航空の利用者数も決して減っていないといいますが、例えば青森 - 東京便で見ますと2.4%増えている。三沢 - 東京便は逆に61.3%と減少しておりますが、これは、便数が1日4便から3便に減便となったことと、あわせて機材が小型化されたことによって減少しているものであって、ロードファクター、実際の利用率で見ますと、去年まで55%であったものがこの期間71.6%に上がっているというような実態がございます。例えば最近の新聞でも、青森の奥座敷と言われている浅虫温泉の利用者が、土日は満杯の状態が続いているという記事も出ております。

このような整備をすることによって具体的な効果に結びつくプロジェクトというのは、非常に少ないのではないのでしょうか。交通インフラですからネットワーク化されることによって、その効果がより大きくなるという点があると思います。そういうことで、ぜひこの後も青森まで早い時期に完成を目指してまいりたいと思っており、皆様方のご支援もいただきたいと思っております。また、青森だけにとどまらず、その後、北海道新幹線につなげて全国をネットワークするということが非常に大事だと思っております。

それから、先ほど市町村合併に関連して、それに対応した地域交通というお話ございましたが、私ども、市町村合併が進みますと当然その後は県の役割・機能といったものが今までとは変わってくると思います。北東北3県、青森と秋田、岩手の3県はこれまでも具体的に広域連携を、進められるものについてはどんどん取り組んできておりまして、いずれ市町村合併が進んだ後、それほど遠くない時点で3県の合体ということを目指している。そうなりますと、市町村合併と同じように関係県間の交通の連絡というのが非常に大事になってくる。その中で、特に、私どもの場合は青森と秋田の、鉄道だけではないのですが高速交通網の整備ということが非常に大事になってくると思っております。そのような観点で、これからも整備新幹線についてできるだけ早い整備を目指してまいりたいと思っております。

八島会長 ありがとうございます。それでは、宮城県の柿崎副知事、何かございませんか。  
柿崎宮城県副知事（浅野委員代理） お話の趣旨に合うかどうかわかりませんが、きょう初めて出席させていただき、そして初めての新しい形の交通審議会ということで、今の青森県の方もお話しがありましたように北東北3県が将来合体されるということで、宮城もおつき合ひできればなと内心思っているわけでございます。そういう中で、東北ブロックとしての交通体系のあり方をこれから模索することは大変重要なことだと思っており、この東北地方交通審議会に大いに期待したいと思います。先ほど来、検討課題について議論がありましたが、基本的には広域交通の問題と地域交通の問題ということで区分が整理できるのかなと感じたところでございます。

それで、私の方からは、説明の中でもお話がございましたように、空港の利用客、南東北の海外に行かれる5割以上の方が成田、関空を使っておられる。それで私どもは、ぜひ仙台空港を使っていただきたいと思っており、この仙台空港を今回の議論の中で、ぜひそれなりの位置づけをしていただければありがたいと思ひまして、資料を配布しております。仙台エアポートというカラーコピーです。

その中で、仙台空港の国際線の利用者の構成率というのが円グラフにあります、11年度

のデータで少々古いのですが、岩手県が14.5%、山形県が14.1%、福島県が10.9%利用していただいております。宮城県の利用が50%に満たない。大変私もうれしく思っております。さらに、もっと空港を活用していただくために、このアクセス鉄道の整備を今進めております。開業の年次を18年としておりますが、このような形で東北全体にとって活用しやすい空港にしていきたいと思っております。路線等については資料に全部載っておりますので特にご説明申し上げませんが、ちなみに盛岡から仙台空港を利用していただくのに現在93分ほどかかっております。それが1時間強、68分で空港まで到着できるようになります。山形ですと、約2時間近く、正確に言うと111分ですが、これが1時間20分ほどで仙台空港をご利用いただけるようになります。

このようなことで、東北全体の中での仙台空港の位置づけを、我田引水の感もございませうが、東北全体の方々にご活用いただけるようなネットワークをあわせて考えていただければ、東北の方々にとっても利便性の向上となり、より効果的な空港の活用になると思っております。

八島会長 ありがとうございます。ほかにもう一つ自治体の方から聞きたいと思っております。山形県さん、いかがでございませうか。

高村山形県土木部次長（高橋委員代理） 山形でございます。

ご案内のとおり、山形においていただく場合、宮城から、福島から、それから秋田から、いずれも長大なトンネル、山を越えなくてはならない状況にあります。そういう意味では高速交通ネットワーク上では後発グループになってしまったのかなと思っております。これから整備を進めなくてはならない部分が大部分あります。

このような中で、鉄道では、ご案内のとおり山形新幹線が平成4年に山形まで開通し、平成11年に新庄まで延伸しました。ただ、やはりミニだということで、福島から板谷の山岳部を古い軌道を使って通ってくる。さらには、まだ単線の区間や踏切等もあります。この機能を強化するということが一つあります。

それから、新庄まで延伸されましたが、やはりその効果を山形、新庄から先の庄内や秋田へと繋ぐという構想があります。これらの山形新幹線の機能強化、スピードアップ対策について、これまでもJR東日本と関係者で機能強化のための検討を進めております。引き続き、スピードアップ、機能強化に努めていきたいと考えております。

次に、羽越本線ですが、これは日本海側の国土軸を形成する重要な路線だということで、これまでも新潟からの新幹線の直通運転の調査等をしていただいております。今後ともこれらの調

査を進め、羽越線の高速化を進めていかなければならないと考えております。

また、山形と仙台は隣り合わせになっており、近年ここの交流が本当に太くなってきている。そこで仙山線の役割がかなり大きくなってきており、こちらの機能強化も重要になってきております。現在、東北運輸局の仙台都市圏及び広域都市間公共交通活性化プロジェクトの中で機能強化に関する委員会を設置して、強化策の課題について検討を行っていただいているところです。

このような中で、広域的な交通ネットワークの強化は、私ども山形県の中でも県土づくりに向けて基礎的な条件となる交通基盤の充実に向けて、厳しい財政の中でも、進めていかなければならないと考えておりますので、皆様方のご支援をよろしくお願ひしたいと思います。

八島会長 ありがとうございます。大分時間も経ってききましたけれども、もうひとかた、仙台市の斉藤助役さん、どうですか。

斉藤仙台市助役（藤井委員代理） きょうの資料なり、事務局の進め方の説明で感想めいたことを話させていただきます。観光についてですが、仙台市も今、都市のこれからの振興ということで観光に着目しております。しかし、恐らく観光そのものについていえば、きょう、まさしくこの「グローバル観光戦略」という資料を見ていて、私も大変ショッキングであったのは、まず外国人が日本に1日1万人以上来ていたのかということ。そんなに来ていたのかなという気もしますが、とにかく日本人は海外旅行というと自分が外国に行くことしかおおよそ考えていない。ですからやはり日本人海外旅行者数と訪日外国人旅行者数ではこれだけの差がある。さらに外国人受入者数の表にいくと日本は35位である。私、初めてサッカーで知ったクロアチアが上位にあり、ああ随分、本当に日本というのは、外から見た観光地としては、まことに低位な国なのだなと眺めておりました。

年明けから新聞を見ていたら国の方で急に、経済対策の一環だとは思いますが、訪日客を増やすという。外客を呼び寄せるといことは大変なことだと思いますが、そういう海外の人を呼ぶという観光が一つ。

それからもう一つ、いわゆる歴史的なもの、自然的なものといった従来の我々日本人が国内で通常思い浮かべる観光ではない都市観光というものが出てきている。都市観光って何かと聞いてもはっきり答えられる人はなかなかいませんが、感覚的に言うと、物見遊山のイメージだけではなく、グルメや、あるいはエンターテインメントに併せて訪れ散歩したよというような、軽く考えて都市を楽しむというようなイメージのようです。これが例になるかどうかわかりませんが、実は先日、井上陽水のコンサートが仙台でありましたが、私の女房が突然聞きに

参りまして、朝向こうを出て、昼に私と一緒に食事して、それで午後少し仙台の散歩をして、夕食をとってから、コンサートを聴いて帰ってしまった。これも、東京と仙台の間が1時間半強ということがなせる技なのですね。なぜ仙台にわざわざ井上陽水を聴きに来たかということ、東京ではチケットがとりにくく、仙台でとれたということで来たわけですが、そういう意味で、少しヘビーな観光ではなくて、都市の機能をリンクさせて楽しむというようなことが、多分、都市観光だと思うのです。そう意味からいうと従来にない発想の観光が、実はこれから勝負になってくるだろうと考えております。その従来にない観光をよくよく考えると、それは非常に重要なファクターが入っていて、それは高速交通体系と極めて密接にどちらも結びついていくというところが、私、今回事務局がこういうテーマを出された、課題の1、2、3という並び方、関連がどうかは別にして、非常に興味を持っております。

仙台としては、東北一円の交通体系が海外から観光客を呼ぶ問題とどうかかわるのか、あるいは仙台で楽しんでもらう都市観光が。逆に東北6県の皆さんが改めて仙台の街を楽しんでもらうという意味で交通体系がどうかかわってくるのかということで、大変前向きに興味を持って議論に参加したいと思っております。以上でございます。

八島会長 ありがとうございます。斉藤さんから次のテーマに自動的に入ったようですけれども、観光のテーマにつきましてほかにご意見ございませんか。

遠藤企画振興部長 東北運輸局でございます。

今、各自治体の委員の皆様からご発言いただきましてどうもありがとうございました。ご発言いただいた内容の中で特に鉄道整備、在来線の整備についていろいろご発言がありました。事務局イメージということで書いておりますが、お手元の資料5の3ページをお開きいただきたいと思えます。最初の枠の検討課題1の下に若干具体例を示しております。当然のことながら新幹線につきましては、全国新幹線整備法に基づき決まっておりますので、それに従って着実に整備をしていくこととなります。新幹線を機軸として、これからどういった鉄道網を整備していくか、在来線の高速化、特に新幹線に接続するような在来線の高速化というのがカギではないかと考えております。現在、新幹線は、東北の場合、縦軸方向に整備が進んできておりますが、これからの10年を見通した場合、それを軸として横軸方向の在来線整備が必要ではないかということがあります。特に青森の中村企画振興部長よりお話しございましたように、新幹線効果で弘前の方までたくさんお客さんが来ているということでございます。ですから、もし新青森まで新幹線が延伸した場合、当然弘前と新青森のアクセスをどのようにするかという点がこの在来線の整備の上で大きな課題となります。

また、広域市町村合併ということでは、弘前市が合併により30万を超える都市になるのではないかということも聞いております。そういうことであれば、まさにその整備は喫緊の課題であります。

さらに秋田までのアクセスをどうするかというお話もございました。

それから、山形県の高村土木部次長からも、陸羽西線で、まさに新庄から庄内地域までのアクセスをどのように改善するのか。そういった横軸方向、さらに羽越線とのネットワーク化、そういったものも課題になります。

また、仙山線のお話もございました。特に現在、山形県では、特に今、河北新報によく出ていますけれども仙山圏ということで、仙台と山形の連携というのを非常に強く志向されていると伺っています。その中で今、高速バスが非常に利便性の高い交通サービスを提供しているところですが、一方で、鉄道もまだ重要な役割を果たしております。その中で仙山線をどのように改良するかということが、やはりこの審議会での重要な課題になろうと思います。ということで、ぜひ、仙台市には、その辺のところもぜひご配慮をいただいて、今後ご意見をいただければと思っております。

それからもう1点、仙台市斉藤助役からお話しございましたグローバル観光戦略でございます。このグローバル観光戦略というのは、既にご承知のとおり、本年2月の小泉総理の施政方針演説で、477万人の観光客を2010年までに1,000万人にする、倍増するという具体的な数値目標の提案がございました。総理の演説で具体的に観光についての目標が示されたというのはこれが初めてでございます。政府を挙げてこの外国人旅行客を日本の観光に誘致しようという政策が進められております。

このパンフレットの1枚表紙をめくっていただきますと、左側にグローバル観光戦略の四つの戦略というのが出ており、この戦略の1番にビジット・ジャパン・キャンペーンというのがあります。これは、まさに日本に外国人を誘致する、その中で特に、日本の海外での認知度を上げて実際にお客様が訪れるようにしていくというものです。このため、15年度から国土交通省に新規に認められた20億円の予算により、これから2010年まで7年間にわたって事業を進めていくものです。私ども、東北としてもこの7年間でまさに勝負のときであろうと考えており、本日お集まりの関係の皆様と一体となって、このビジット・ジャパン・キャンペーンをこれから東北で実施していきたいと思っております。

もう1点、観光戦略部会の設置を事務局から提案いたしました。グローバル観光戦略というのは全国版でありまして、東北の場合、全国に比べてまだまだこの外国人旅行客の受け入れ体

制という面では遅れがあります。そのため、ぜひこの観光戦略部会では東北版のグローバル観光戦略、すなわち、現在の東北における外国人の観光に関する現状を十分分析した上で、どの部分を改善していかなければならないかという具体的な提案をいただくという形でご審議を進めていただければと思っております。以上です。

八島会長 ありがとうございます。ほかにご意見ございませんか。福島県さん何かありますか。

伊東福島県県民環境室長（佐藤委員代理） 観光戦略という面でちょっと気づいた点をお話ししたいと思います。今回の議論は東北エリアを広域的に結んでどのように観光地をつくっていくかというような話もありますが、やはり情報の出し方が非常に大事ではないかという気がずっとしております。例えば地元の新聞を見ますと、地元勤められた若い新聞記者の方が東京に戻られて、例えば同級会をする。そうすると、福島から来るのであれば5時間ぐらいかかりますかという話を東京ではされるが、実際は1時間半ぐらいで行く。というように、高速交通体系が非常に便利になったということをごどこまで周知できているのか、その便利さが対外的にアピールできているのかどうかということが一つあります。また、東京に行き、旅行代理店の店頭を見るといろいろなパンフレットありますが、栃木・茨城止まりの情報はかなり多いのですが、その先というと、やはり情報が薄くなってくのではないかという気がしております。やはり東北が一体となって、九州あるいは関西、関東、場合によっては海外に、どのような形で利便性やよさを売っていくのかということも一つ戦略として大事だと思っております。

そこで、去年まで携わった事業の例でご紹介いたします。今、重要港湾で物流拠点となっております小名浜港の1号埠頭と2号埠頭に「親水空間」ということで、市の物産センターと、大型の水族館を造りました。全国的規模の水族館ですが、ただ、それだけではなかなか情報発信が難しかったのです。しかし、この水族館が、いわゆるイルカのショーというような昔型の水族館と趣を異にしまして、地元で食べる魚を飼育してみましようという発想で行い、「サマの飼育に世界で初めて成功した」ということを大々的に発表しましたら、海外メディアから日本のメディアからたくさん引き合いが来まして、全国放送でいろいろ放送していただいた。情報発信がうまくいきますと来る方々も県内だけではなく、かなり遠方からも来られまして、12年にオープンしましたが、年間100万人を超える入館者がありました。県の観光統計を見ましても、昨年で物産センターと水族館合わせますと大体年間で150万ぐらいの人出があると書いてあります。これは、あれだけ有名な会津若松の市街地が年間170万ぐらいですから、今や福島県を代表する観光スポットになったということでもあります。それ以来、情報の発

信方法が観光地の盛衰を決める一つの大きなポイントであると感じております。

もちろん受け皿としての観光地の質のよさも当然なくてはなりませんから、そこはしっかり気を配っていかなくてはならないと思います。そこで、先ほどバリアフリーという言葉がありました。交通バリアフリー法等によってバリアフリーに取り組むことはいいのですが、ただ、もう少し世の中進んでいるので、ぜひユニバーサルデザインという観点で、外国の方も来る、障害者の方も外に出る、高齢者もいる、子供さんもいる、そういうすべての人にとって本当に利用しやすいかどうか、そういった議論も観光地としてはすべきではないかと思っております。以上でございます。

八島会長 ありがとうございます。ほかにご意見ございましたら。どんなテーマでも結構でございます。

青木委員 日本ホテル協会の青木でございます。

日本ホテル協会のホテルというのは、外国人を泊めるための法律に基づきましてつくられたホテルでございます。昭和30年代は、特に外国人の数に応じて外貨が割り当てられた、有利な商売ができたということで、みんな一生懸命にインバウンドに力を入れたのです。そういう意味で、何か求められればその辺の経験、今後もお話し申し上げたいと存じます。

先ほど日本への観光客、インバウンドの人数、これが非常に少ないというお話が出ておりますが、これは結局、日本に関心を持つ人の数が少ないからだと思っております。東北につきましては特に知名度ゼロ、それに加えてビジネスの交流もないということがあります。これが致命的なところだと思っております。箱根、日光、それから鎌倉、こういったところが外国人の間に有名になったのは、東京に商売に来た人たち、この人々が時間のあるときにそういったところへ訪れたということが非常に大きな要素だったのであると思っています。そういう意味で、東北の知名度を上げることが何よりもこの会議で重要なことではないかと思っております。

それで、先ほどの説明の中であと10年をどうするかということを経験するということがございますので、実はちょっと話がオーバーになるかもしれませんが、思いつきでお話しいたします。ワールド・エコノミック・フォーラム、通称ダボス会議というものがあります。毎年夏になりますと、スイスのダボスに、いろいろな世界のトップリーダーが集まって会議を開きます。スイスのダボスというとみんなそのことを知っているわけですね。僕は30年代の終わり頃にスイスで働いておりましたが、あんな何も無いところによくあのような会議を誘致したなということを実は非常に感心しているのです。東北の知名度を上げる一つの手段といたしまして、例えばダボス会議のようなものを誘致することを目標の一つ決めるというようなことも

考えてみてはいいのではないかと思います。以上でございます。

八島会長 ありがとうございます。ほかにございませんか。

他にご意見もないようですので、これまでの皆様からのご意見に対しまして何か事務局からございますか。よろしいでしょうか。

それでは、本日皆様から貴重なご意見をいただきました。事務局は本日いただいたご意見を踏まえてこれから検討の準備に入っていただきたいと思います。

#### (6) その他

八島会長 続きまして、議題6のその他でございますが、事務局の方から何かございますか。

事務局 本日はこれまで説明させていただきました資料のほかに、参考資料といたしまして、平成14年度東北運輸局の主要施策、平成15年度の国土交通省の新規事業の関連として予算概算決定の概要、先ほどもお開きいただきましたグローバル観光戦略のパンフレット、運輸要覧というさまざまな統計資料を盛り込んだ資料を準備させていただいたところでございます。これらは、説明の方は省略させていただきますが、内容をご覧いただきまして、ご質問等ございましたら、後日、私ども事務局にお問い合わせいただければと思っております。以上でございます。

八島会長 ありがとうございます。

それでは、定刻になりましたので、以上をもちまして本日の議事を終了させていただきたいと思いますが、再確認でございます。観光戦略部会の人選につきましては、私にご一任いただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

本当に本日は皆様からの大変協力をいただきまして無事終わることができました。ありがとうございました。

#### 4. 閉 会

事務局 それでは、委員の皆様には大変長時間のご審議ありがとうございました。

なお、本日も承認いただきましたような形で今後の審議を進めさせていただきたいと考えております。

これをもちまして第6回の東北地方交通審議会を閉会いたしたいと思っております。

ありがとうございました。

以 上